

## 「女性委員会設立20周年を祝して」

(社) 岐阜県建築士会 会長 藤井 孝一

(社) 岐阜県建築士会女性委員が設立20周年を迎えられた事に心よりお祝い申し上げます。女性委員会の皆様は全国女性建築士連絡協議会の一員として、設立以来活発に活動されてきたことと思います。全国女性建築士連絡協議会及東海北陸ブロック会に於いて独自の活動事業を報告して、注目されていると思います。青年委員会との共同事業の建築文化講演会の開催、又岐阜県内の公共施設を主とした、建物使い心地調査の事業は実際に使う側に立脚した感点からの調査であり、大変意義のある事業だと思います。設計者は得てしてデザインに凝って、使い心地等を考慮しない場合が多いと思われます。多数の人々が使う建物はデザインだけではなくて、機能的な事も良く考慮する事が大切であると思ひます。女性建築士の立場から各施設の使い心地を調査して、次のプロジェクトや新しい建物に参考にしてもらおうと良いと思ひます。是非、今後共研究課題として、取り組んでいただきたいと思ひます。青年委員会との共同事業の建築文化講演会は本年度第28回になりましたが、(社) 岐阜県建築士会の主要な事業の一つであり、地域の若い建築士を中心にした建築に携わる者にとって、話題の人、注目されている人の話しを直接話しを聞ける事は大変意義ある事業だと思います。年々、聴衆者が多くなっていますが、本年度の堀部安嗣氏の講演会には、若手の住宅作家として注目されていることもあって、会場が満員になり大成功であったと思ひます。堀部安嗣氏の建築はある程度古くなってよさが出なければならない、又住宅は時代にあった機能、設備等を備えている事が大切であるという話は大変重要であると思ひます。近年、建築を学んで、活躍する女性建築士が増加しています。今後共、女性建築士として、木目細かさを活かして、事業、活動をしていただきたいと思ひています。

## 20年のあゆみ発刊にあたり

女性委員会委員長 下川 滝美

1988年の準備段階より今日までの女性委員会の活動をまとめるという作業にあたり、歴代の委員長様はじめ、士会事務局の皆様には大変お世話になりました。まずはじめに感謝申し上げます。

発足当時を知らない私にとっては、歴代の委員長の方々と写真をみながら当時のエピソードを聞く機会をいただいたことは、とても大きな喜びの連続でした。

そしてお話を聞くごとに、女性委員会の活動と、時代の変化、それに伴い女性建築士に求められる社会のニーズを知り、改めて委員会活動の意義を確かめることができました。

今回この20年の節目に、諸先輩方の積み重ねてこられた活動を「20年のあゆみ」という形でまとめました。

内容は、活動の記録が中心ですが岐阜が開催県となった大会の記録、機関誌の創刊号等残しておきたい記事なども掲載いたしました。

懐かしさと共に、これからの活動の参考書としても活用していきたいと思います。



委員会



講習会



文化講演会受付



建物見学会



建物使い心地調査



## 目 次

岐阜県建築士会女性委員会 20周年を迎えて

初代委員長	林 直見
前委員長	小林 教子
前委員長	河内 美代子
前委員長	津川 文江

### ■ あゆみ

第1期	発足から平成6年
第2期	平成7年～平成10年
第3期	平成11年～平成16年
第4期	平成17年～19年
第5期	平成20年

### ■ 記 録

平成7年5月	全国女性建築士連絡協議会を岐阜で開催
平成7年6月	「女性委員会だより Vol.1」
平成12年8月	「らくだ vol.1 創刊号」

女性建築士のつどい（気楽にらくだ会）の記録

### ■ 委員より一言

### ■ あとがき



## 岐阜県建築士会女性委員会20周年を迎えて

女性委員会 初代委員長 (H1～H6)  
林 直見

岐阜県建築士会女性委員会が20周年を迎えられたことを心よりうれしく思います。今日を迎えられたのは歴代の委員長始め女性会員の地道な活動の結果のたまものだと思います。ときに、岐阜県建築士会女性委員会の発足と時を同じくして、全国女性建築士連絡協議会が設立され、全国的な女性建築士のネットワークができました。当時は女性建築士が少なく会員を捜すのに苦労しましたが、20年の歳月は時代の変化を物語るかのように、現在では建築士会での女性専門職の活躍がめざましく、会員の輪も広がってきました。

発足当初は女性が集まることへの反撥もありましたが、これは男性社会であった建築業界へのひとつの試練であると考えておりました。「無」からの出発のため、まず、会の定着と持続させることを考え、そのため、会の骨格づくりに月例会の「ミニ研修会」の定着化を行い、会員相互の自己研鑽の場と情報交換の場として会の充実を図ってきました。その後、社会貢献を行うことで女性委員会の社会的存在感が創出できると信じておりました。また、そうでないと女性建築士としての専門職が市民権を得られないと思っていました。

20周年という節目を迎えこれまでの努力が決して無駄でなく、時代の要求する男女平等社会を、建築業界に女性建築士としての専門職が実現できたことに新たな感懐を催します。そうしたことから、ひとつの節目としてこれまでの経過をまとめることは、女性建築士の次への飛躍となりましょう。最近の社会情勢の変化は建築業界へ新たな変化を要求してきており、女性委員会の活動にも変化が出て来ると思います。そのため、委員会として信念を持ち社会貢献を果たし、より良き委員会の今後の発展を希望しております。

女性委員会 二代目委員長 (H7～H10)  
小林 教子

建築士会に入会してから、殆どを女性委員会活動で過ごしてきたことになります。

青年委員会活動から始まり、全国大会岐阜大会を経て女性委員会の立ち上げそして運営と、初期から委員長時代は目いっぱい活動をしていましたが、若さゆえ頑張れたのではないかと今思います。一緒に活動してくださった委員の方々やアドバイスを下さった諸先輩方には改めて御礼を申し上げます。

研修の企画運営をしたり、東海北陸地域や全国の女性建築士の方々と交流をしたり、委員会終了後に青年や女性建築士仲間と語らったりしたことは、私には自己研鑽になるとともに大いに気分転換になりました。委員会活動が契機となり、海外研修を経験でき、全国大会にも多数参加し、充実した20年でした。子供たちは保育園児だったのが社会人となり、いつのまにか孫まででき・・・それを考えると経てきた時間はずいぶんと長いものですね。でも委員会活動に参加していなければ得られなかった仲間や経験は何物にも変え難い私の財産となっています。

若い委員の方々には、今後とも女性委員会活動に積極的に参加して、さらに多方面へ活動を広げていただき、自身のスキルアップと仲間作りに役立ててくださることを祈っています。同じ会費を払っていても積極的に参加するかどうかで、得られるものは雲泥の差になるものですよ♪

女性委員会 三代目委員長 (H11~H16)  
河内 美代子

建築士として積極的に活動できない時期があっても、育児や介護に一区切りや一休みできた時に、また活動に戻ってこられる、そんな女性建築士の「故郷」のような集まりが女性委員会だと思えます。と言いながらも活動できる人が限られる中、後を見つけないことには委員長を放り出すわけにも行かず結構長く委員長をさせていただいた私ですが、既に2人の新しい委員長さんが誕生し、活動できる人の顔ぶれも多彩になり、着実に女性建築士の「拠り所=故郷」になりつつあるのではないかしらと喜んでおります。

さて私の委員長時代の思い出ですが、色々ありますがその一つは委員会日より「らくだ」を今のスタイルに修正して発行した苦労でしょうか。ご主人の転勤で今は建築士会を辞められたTさんがワードでフォームを作ってくれ、ニューバージョンになったのですが、当時、まだ、ワードを使いこなしているメンバーは少なく、原稿を貼り付けるとらくだの絵の部分やページが飛んでしまい、何ともイライラしながら睨めっこする日々が続いたのが印象に深いです。でもその「らくだ」も既に20号を超え、皆さんの努力に感謝感謝です。また、三浦会長（当時）さんには毎回といっても言いくらい、女性委員会に出席していただきご助言いただいたことがとても貴重でしたが、その会長さんからネーミングについて「いい名前ですね」と言われてとても嬉しかったのもいい思い出です。ちなみにこの「らくだ」の名称は女性建築士の集い「気楽にらくだ会」とも連動した名前です。

最後に、女性ならではの立場や目線・感性で今後も地道な活動が続けていけたらいいなと、女性委員会にエールを送り続けたいです。

女性委員会 四代目委員長 (H17~H19)  
津川 文江

時の経つのは速いもので、女性委員会が平成元年に結成され20年という歳月が流れました。私は、平成17年度より河内委員長のあとを三年間引き継ぎました。当初は、何もわからず不安な毎日でしたが前委員長の方々の「あなたのカラーで」という言葉に励まされて何とか無事務めました。今思えば、有意義で充実した時をすごしたと思います。当時、女性委員は、19名で活動しておりました。私としては、この委員会が、自己研鑽・情報交換、又、息抜きのできる場所で、楽しいお付き合いができる場所にしたいと思っておりました。貴重な時間を割いて集まるため、短時間集中会議を行い、その後は、楽しい井戸端会議に花を咲かせ、和やかな雰囲気活動していました。しかし、子育て・介護・仕事で参加できない方もあり、会議をする時間帯によっても左右されて参加する人数も5・6人と限られておりました。その時は、活動できる人達でがんばればと思わず少数人数で各自得意とすることを活かし活動してきました。しかし、少しでも全員の方々に関わって頂きたいと思いメール会議を試みてみました。これは参加できない方々の近況も伺えて大変よかったですと思いました。この三年間の行事を振り返って印象に残ることは、平成19年6月に開催した東海北陸ブロック会（前期岐阜大会）でした。数ヶ月前からの計画、当日の運営、すべてが良い経験となり、これも会員の皆様や青年委員会の皆様の御協力が無事終了しました。又、見学会（セントレア国際空港や常滑INAX見学等）や以前からの建物の使い心地調査（トイレ調査等）、研修会（岐阜の素材を知ろうシリーズ等）、以前は女性建築士の集いと言いましたが現在の「気楽にらくだ会」HP、メーリングリスト 年3回の女性委員会日より（らくだ）等各々得意な分野を活かし分担し、各企画を相談し運営してきました。女性委員会だよりも初刊から現在92号にもなっており、内容を読み返せば女性委員会の歴史を感じることができます。会員の皆様の協力にとっても感謝いたしております。今は、次の世代の人達をもっと活動されることを願い、もっと大きな輪が広がるよう声をかけていきたいと思っております。